

宮城いきいき便り

良き仲間と地域に貢献

宮城いきいき学園 3月に卒業式

◆気仙沼・本吉校 熊谷和子さん(72)



「学園では健康について、いっぱい学んだ」とほほ笑む。

「夫の死後、一人暮らしで何も手につかず、泣き暮れていた。近所の方に『泣いてばかりいないで、いきいき学園に入ったら』と勧められた」のが入学するきっかけ。

若いころは婦人会で、学園に入る前は民生委員や自治会役員として活動してきた。元気に活動するためには、健康管理の大切さを実感していた。そればかりではない。東日本大震災の余波が続く中、建築業を営ん



はつらつとハーモニーを響かせた気仙沼・本吉校の文化祭

宮城いきいき学園の卒業式が3月に行われる。卒業を間近に控えた気仙沼・本吉校の熊谷和子さんと登米・栗原校の工藤義子さんに今の心境をインタビューした。

本吉校は他の4校とは異なり、学習会場の関係で1年生と2年生の学習日が違う。文化祭は一緒になって取り組む数少ない学習会場の一つ。

「1年生の時は2年生を手伝いつつ、自分の出演する演目を覚えるのに夢中だった。2年生になって同級生たちがそれぞれの特技を十分発揮し、成功に導いてくれた」と喜ぶ。

「委員会では心響く歌声を披露した。卒業アルバムを作り卒業式当日、卒業生に配る。」

「委員会の皆さんはカメラやパソコンが上手で、良いものができそう」

◆登米・栗原校 工藤義子さん(71)



「息子と孫の3人暮らし。農家を営み、仙台市場に野菜を出荷している。これまで働き通しだったので『いきいき学園に入ったら』と勧められた。」

「多岐にわたる活動で、先生にいろいろと教わった。先生のおかげで、卒業後は、2年間の学園生活で得た知識や経験を生かし、地域のリーダーとして、豊かな社会づくりの活動に取り組む。同級生らと協力し『お茶っこ会』を開くなどして地域貢献を目指す。」

「年を取ると、人は自分自身を助けるため、もう一つは他者を助けるために、この言葉を地域で実践に移す。」

朝、ハウスで一仕事してから登園。栗駒山などを眺めながら農作業をしていると、野菜

「多岐にわたる活動で、先生にいろいろと教わった。先生のおかげで、卒業後は、2年間の学園生活で得た知識や経験を生かし、地域のリーダーとして、豊かな社会づくりの活動に取り組む。同級生らと協力し『お茶っこ会』を開くなどして地域貢献を目指す。」

「年を取ると、人は自分自身を助けるため、もう一つは他者を助けるために、この言葉を地域で実践に移す。」

「年を取ると、人は自分自身を助けるため、もう一つは他者を助けるために、この言葉を地域で実践に移す。」



登米・栗原校の文化祭では華やかなダンスが披露された